

漢和辞典を使いこなすために

水戸市立上大野小学校

私たちの願い

- 1 知的好奇心の芽を伸ばすために、低学年のうちから漢和辞典に親しませたい。
- 2 漢和辞典に親しませることで、『論理』や『分類』を理解した知的な子どもを育てたい。

漢和辞典を使いこなすための6つのこと

1 索引を見つけ、数多く漢和辞典に触れる

- (1) 3種類の索引（部首、音訓、総画）のページをすぐを開けるようにする
 - ・漢和辞典に慣れるために、とにかく索引のページを何度も何度も見ることが肝心。
- (2) 部首索引
 - ・部首の並び方を理解できる。 → 画数順に並んでいる
 - ・同じ部首の漢字の並び方を理解できる。 → 部首以外の画数順に並んでいる
 - ・部首の名前を言える。 → 名称はすべて覚える
- (3) 音訓索引
 - ・どのように並んでいるか理解できる。 → 音訓別、それぞれ50音順
- (4) 総画索引
 - ・どのように並んでいるか理解できる。
 - 画数順、部首別（画数順に並んでいるが、同じ画数の漢字は、部首の画数の小さい方から順に並んでいる。また、同部首の漢字が二つ以上ある場合は、音読みの五十音順に並んでいる。訓読みしかない漢字は音読みの後に並んでいる。）

2 漢字がどのように並んでいるかその規則性を理解する

- (1) 部首別に分類されていることが分かる。
- (2) 部首の画数の少ない方から多い方へと順に並んでいることが分かる。
- (3) その部首に分類された漢字は、部首以外の画数の少ない方から多い方へと並んでいることが分かる。
- (4) 『部首の～画』『総画は～画』という言い方ができる。
 - 例『海』⇒『さんずいの6画』、『総画は9画』

3 漢字を素早く見つけられるようにする

- (1) 30秒以内に見つけられるようにする。（国語辞典は、見出し語は10秒で見つける）
- (2) 初期段階では、素早く見つけられればよしとする。
- (3) 部首の～画、総画、音訓別の読みを言うようにする。
- (4) 次々に課題を出し、短時間でたくさんの漢字を調べられるようにする。目安は、1分1字。

4 熟語を調べられるようにする

- (1) 調べる漢字が語頭にくる二字以上の熟語の読みと意味を理解する。
- (2) 調べる漢字が語尾にくる熟語の読みを理解する。
- (3) 熟語と訓読みを漢字練習帳に書く。 → 4 (1), (2), 訓読み の三種類
- (4) 漢字練習帳には、難解な熟語の意味、部首名、対義語や類義語、慣用句、故事成語、四字熟語、書き順、字義等漢和辞典を引いて知り得たことを細かくメモする。
 - 単なる写す学習から、個性的で創造的な漢字練習帳への転換

5 3種類の索引を使いこなす

- (1) 基本的には、部首索引を用いる。 → その漢字の部首を明確に知る（意味まで）
- (2) 部首が分からなくても、何が部首かを推測して部首索引を使ってみる。
- (3) 推測して調べてみても部首が分からず、読みが分かっている場合は、音訓索引を用いる。
- (4) 部首も読みも全く分からない場合は、総画索引で調べる。

6 作文へ生かす

- (1) 調べた漢字が含まれる熟語をできるだけたくさん使って、ウソの作文（フィクション）を書く。
- (2) 用紙は、<http://www.magokoro.ed.jp/kamioono-e/original/kyoiku/usosakubun.pdf> をダウンロードして使う。